



2026

# 学校だより **本荘** *Smile*

令和7年度 第39号  
令和8年3月3日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

## 10/20 5年生で道徳の研究授業がありました。「自由と責任」についてみんなで深く考えました。



10月のお話になりますが、5年生で道徳の授業を行いました。テーマは「自由について考えよう」です。

5年生の道徳で「自由」を扱う際、中心となる学習指導要領の内容項目は「善悪の判断、自律、自由と責任」です。単に「好きなことをする」のが自由ではないことに気づかせ、「自律（自分を律すること）」と「責任」の観点から深めるのが一般的です。

今回、5年生で行われた授業は、自由についての定番教材と言われている「うばわれた自由」という資料です。多くの教科書に採用されている代表的なお話です。あらすじは、次の通りです。王子ジェラルドは、森の番ガリューの制止を無視して、きまりを破り等わがままに振

る舞います。しかし、ガリューを牢に閉じ込めたことで、自分自身も孤独や不自由さを感じるようになります。今度は、自分が牢屋の中で考えなければならなくなるという内容です。

学習のねらいは、「自由」と「自分勝手（わがまま）」の違いを考え、自由には責任が伴うことを理解することです。授業は、中川先生が丁寧な教材研究をされ、こどもたちもすぐ意欲的に発言していたので、見ごたえのある授業になりました。私が参観しながらとても感心したのは、こどもたちが日頃の自分たちの生活を振り返り、自分のくらしを語ろうとしていたことでした。しっかりと自分自身を振り返っていたのです。（裏面へ）

これって、実はすごいことなのです。道徳の授業において、よく課題となることがあります。それは授業で、資料のお話の内容についての意見が交わされ、お話の中の道徳的価値観について外側からだけ話し合いをして、内面的な「じゃあ、自分はどうなの？」が見えない場合です。具体的に言うと、自分自身は道徳的な行動をしていないのに、授業の中では、「親切は大切だ」とか、「家族に感謝しないといけない」みたいな、とてもよい意見が飛び交う授業がそれにあたるといえるでしょう。自分自身の生活をふり返って、できていないことは反省し、「これからはこうしていきたい」と語り合うような授業が道徳では必要です。

5年生の授業では、それができていたのです。だからうれしく思ったのでした。道徳では、子どもたちに本音を語らせるために、以下のような手法が使われています。

#### ① 子どもの思考を深める工夫

##### ・立場の可視化

例えば、「自分勝手」と「本当の自由」の境界線について、ネームプレート等を使って自分の立場を明確にさせます。

##### ・問い返しの活用

「迷惑をかけなければ何でもしていいの?」「我慢することは不自由なこと?」といった問いを投げかけ、単純な善悪二元論を超えた思考を促します。

#### ② 役割演技(ロールプレイ)による共感

##### ・葛藤の再現

「うばわれた自由」などの物語で、もし自分がその立場だったらどう声をかけるか、実際に演技(ロールプレイ)をさせます。役を演じることによって、言葉に詰まる経験等、頭ではわかっているにもかかわらず難しい道徳的価値を実感させます。

道徳は週に1時間のカリキュラムですが、その1時間に先生方は、このような工夫をされているのです。5年生の研究授業を紹介したかった理由がそこにあります。

今回の学校よりは、すこし専門的なことも書きましたが、先生方がそれだけの教材研究を毎日やっているということを知っていただきたかったというのも校長としての本音です。毎日、毎日、明日の6時間分の授業の教材研究を先生方はされています。高学年では、16時ぐらいに下校をします。先生方は、そこから教材研究を始めます。勤務終了はご存じのように16時50分です。その他にも、その日の授業で使ったテストやプリントの採点、ノートチェックもします。そんな中で、優れた授業を実践しているのです。子どもたちもその事実をしっかりと知っておいてほしいと思います。本荘の子どもたちは、そんな一生懸命に仕事をする先生方の努力に支えられて育っています。これからも先生もがんばる、子どももがんばる学校でありたいものです。(校長)

## 校長先生の虫眼鏡

## 「図書室はエンターテインメントの宝庫」

写真自体は少し前のものになるのですが、今の図書室ってなかなか、カッコいいと思いませんか?もちろん古賀先生のセンスがよいのですが、ちょっとおしゃれなカフェみたいですよね。もちろんエンターテインメントの宝庫で、面白い本がいっぱいあるのです。ぜひお寄りください。

